

小学校「家庭」と
中学校「技術・家庭 家庭分野」の

小・中連携の具体例





● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 学習指導系統一覧	4
● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 「調理実習」例	12
● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 「布を使った物の製作」作品例	14
● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 「実験・観察」例①食生活に関する学習	16
● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 「実験・観察」例②衣生活に関する学習	18
● 小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の 「実験・観察」例③住生活や環境に関する学習	20
● 小学校「家庭」にかかわる他教科の学習内容	22
● 平成 27 年度用 開隆堂小学校家庭科教科書 「わたしたちの家庭科 5・6」の内容と他教科との関連	23

は

じ

め

に

小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」における内容の円滑な接続が求められています。実践に際しては、小・中の A～D の内容が、具体的にはどのように系統的かつ接続性をもっているかなどについて、指導者が理解しておくことが重要です。

小・中の連携を効果的に行う方策としては、具体的には次のようなことが考えられます。

- 1 地域の小学校家庭科と中学校技術・家庭科の指導者が、地域や児童の実態および発達段階を考慮しつつ、小学校5年から中学校3年までの5年間で育てたい「子ども像」や、各学年での指導の重点のおき方など、効果的に指導する手立てについて話し合います。

たとえば、小・中学校の指導者がそれぞれの年間指導計画を持ち寄り、話し合いの資料にすることによって、相互の指導観や教材観の理解が深まり、5年間の系統的な指導についても話し合うことができます。

- 2 互いに授業参観をしたり、場合によっては指導者の交流授業などを行ったりすることによって、小・中の接続性・系統性はあっという間に深まっていくものと思われます。
- 3 適宜、小・中学校の合同研究会を実施して、接続性や系統性のある指導を持続的に行うことです。



次ページ以降に、〈小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の学習指導系統一覧〉や〈小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の具体的な実習例・製作例・実験例・観察例や他教科との関連等〉を示しました。小・中の連携を考える際の参考になれば幸いです。

小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の学習指導系統一覽

小学校家庭 5 年	小学校家庭 6 年
学習指導要領の目標 教科の目標 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。 第 5 学年及び第 6 学年の目標 (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。 (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。 (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	
学習内容 A 家庭生活と家族 (1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。 ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。 ○ガイダンス ○自分の成長 ○家族の 1 日の生活を見つめる ○家族とのかかわり ○家族の大切さ (2) 家庭生活と仕事について、次の事項を指導する。 ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。 ○家族の一員 ○家庭の仕事のいろいろ ○仕事の協力と分担 ○仕事の手順 (3) 家族や近隣の人々とかかわりについて、次の事項を指導する。 ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。 ○楽しい団らん（家族とのふれ合い） ○簡単なおやつ（りんごの皮むき）	
(2) 家庭生活と仕事について、次の事項を指導する。 ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。 イ 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること。 ○自分の生活時間の使い方 ○自分の生活時間の見直し ○家族と共に過ごす時間づくり (3) 家族や近隣の人々とかかわりについて、次の事項を指導する。 ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。 ○家族との食事づくり、楽しい食事 ○家族や周囲の人に感謝の気持ちを伝える工夫 イ 近隣の人々とかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。 ○近隣の人々とかかわり ○地域の環境 ○地域で決められたごみの分別 ○家庭排水、そう音	

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)	備 考 (内容の取扱いなど)
学習指導要領の目標 家庭分野の目標 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。	㊦ 小学校で指導する基礎的・基本的な知識・技能が中学校の学習に発展していくものとして明確に意識され、着実な定着につながることを目指している。 ㊧ 家庭分野の学習は、小学校家庭科の学習を基盤として発展させるものであり、その連続性と系統性を重視しながら指導することが大切である。
学習内容 A 家族・家庭と子どもの成長 (1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。 ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。 ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 (3) 幼児の生活と家族について、次の事項を指導する。 ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。 イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。 ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること。 エ 家族又は幼児の生活に関心を持ち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。	注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。 ㊦ 5年の(1)ア 4年までの学習を振り返り、2学年間の見通しがもてるようにするためのガイダンスとして扱い、またA～Dの学習を貫く視点として各内容とも関連させて取り扱う。 ㊧ (1)ア 小学校家庭科の学習をふまえて、3学年間の見通しをもたせるためのガイダンスとして扱い、またA(2)・(3)の導入として関連を図って取り扱う。 ㊦ (2)ア・イ、(3)ア・イ これらについては、5・6年ともB～Dの衣食住等の学習とも関連づけて取り扱う。 ㊧ (1)～(2) これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「A 家庭生活と家族」の内容(1)・(2)・(3)に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。 ㊧ 注記 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す(3学年間で1または2事項を選択する)。

B 日常の食事と調理の基礎

(1) 食事の役割について、次の事項を指導する。

ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。

○食事の役割（健康・成長・活動・人とのふれ合い）

イ 楽しく食事をするための工夫をすること。

○楽しい食事 ○食事のマナー（食事のあいさつ・食べ方・会話など） ○茶わん・はしの持ち方 ○お茶の入れ方

(2) 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。

ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。

○五大栄養素とそのはたらき

イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。

○食品の3つのグループ分け ○食品の体内ではたらき
○食品の組み合わせ ○栄養のバランスのよい食事

(3) 調理の基礎について、次の事項を指導する。

ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。

○ゆでたまご、ゆで野菜サラダ、ご飯・みそしるの調理計画、材料と分量、用具・器具・食器、調理手順

イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。

○ゆでたまご、ゆで野菜サラダ、ご飯・みそしるの材料の洗い方・切り方・味つけ、盛りつけ・配膳・試食・あとかたづけ

ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること。

○ゆでたまごの調理 ○ゆで野菜の調理

エ 米飯及びみそ汁の調理ができること。

○伝統的な日常食 ○ご飯たき ○みそしるづくり

オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

○用具・食器の衛生的な使い方、安全な使い方
○ガスこんろの安全な使い方

(1) 食事の役割について、次の事項を指導する。

ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。

○朝食などの食事の大切さ

イ 楽しく食事をするための工夫をすること。

○楽しい食事
○食事のマナー（食事のあいさつ・食べ方・会話など）

(2) 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。

ウ 1食分の献立を考えること。

○栄養のバランスのよい1食分の献立づくり

(3) 調理の基礎について、次の事項を指導する。

ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。

○フライパンを使った調理や、じゃがいもの調理の、調理計画、材料と分量、用具・器具・食器、調理手順

イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。

○フライパンを使った調理や、じゃがいもの調理の材料の洗い方・切り方・味つけ、盛りつけ・配膳・試食・後かたづけ

ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること。

○スクランブルエッグ ○三色野菜の油いため
○じゃがいもを使ったいろいろな調理

オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

○用具・食器の衛生的な使い方、安全な使い方
○ガスこんろの安全な使い方

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)	備 考 (内容の取扱いなど)
B 食生活と自立 (1) 中学生の食生活と栄養について、次の事項を指導する。 ア 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。 イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えること。 (2) 日常食の献立と食品の選び方について、次の事項を指導する。 ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知ること。 イ 中学生の1日分の献立を考えること。 ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できること。 (3) 日常食の調理と地域の食文化について、次の事項を指導する。 ア 基礎的な日常食の調理ができること。また、安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができること。 イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解すること。 ウ 食生活に関心を持ち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。	注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。 ㊦ (1) ア・イ B (2)・(3)の項目ほか、アではA (2)「家庭生活と仕事」の内容、イではA (3)「家族や近隣の人々とのかかわり」の内容とも関連を図るように配慮する。 ㊦ (2) B (1)・(3)の項目や給食の献立との関連を図り、日常生活に即して具体的に学習できるようにする。 ㊦ ㊥ (2) ア・イ これまで中学校で扱っていた五大栄養素を、小学校で扱うこととなった。中学校で学習する日本食品標準成分表や食事摂取基準、食品群別摂取量の目安などの学習につなげる内容として、小学校では五大栄養素の基礎的事項について扱うように配慮する。 ㊦ ㊥ (3) 生の肉や魚は小学校では扱わず、中学校で取り扱う。 ㊦ 「食育」の充実 小学校においては、家庭科などの食に関する指導を中核として、教育活動全体で一貫した取り組みを推進することが大切。 家庭科教育では、食事を大切にする心、望ましい栄養や食事のとり方、食品の品質や安全性等に関する基礎知識、調理の基礎的・基本的な知識・技能などを総合的にはぐくむ観点から推進することが必要である。 ㊥ (1)～(3) これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「B 日常の食事と調理の基礎」の内容(1)・(2)・(3)に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。 ㊦ 注記 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す(3学年間で1または2事項を選択する)。

C 快適な衣服と住まい

(1) 衣服の着用と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

- あたたかい着方 ○衣服のはたらき（特に活動や安全）
- 快適な着方

イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。

- ボタンつけ（小物づくり）

(2) 快適な住まい方について、次の事項を指導する。

ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓^{とん}や清掃の仕方が分かり工夫できること。

- 気持ちのよい住まい方 ○整理・整頓^{とん}が必要な理由 ○整理・整頓^{とん}の手順 ○持ち物の分類 ○整理・整頓^{とん}のくふう

イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。

- 自然を生かした住まい方 ○あたたかく明るい住まい方のくふう（採光・照明、暖房器具の安全・かん気）

(3) 生活に役立つ物の製作について、次の事項を指導する。

ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。

- ネームプレートや小物づくりの構想・計画・手順など

イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。

- 玉結び・玉どめ ○手ぬいのしかた ○ネームプレートや小物づくり ○ミシンぬいのしかた ○ランチョンマットやクッションなどのつくり方

ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

- 製作に必要な用具 ○針やはさみ、アイロン、ミシンなどの使い方と安全な取扱い

(1) 衣服の着用と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

- すずしい着方 ○衣服のはたらき（特に衛生上）
- 快適な着方

イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。

- 衣服のよごれと手入れの必要性 ○手入れの手順
- ボタンつけ ○衣服の取り扱い絵表示 ○洗たくのしかた

(2) 快適な住まい方について、次の事項を指導する。

ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓^{とん}や清掃の仕方が分かり工夫できること。

- 気持ちのよい住まい方 ○身の回りのよごれ調べ ○そうじの手順とそうじのしかた ○不用品の活用 ○ごみのしまつ

イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。

- 自然を生かした住まい方
- すずしい住まい方のくふう（通風、すずしく過ごすためのいろいろなくふう、エアコンや扇風機のかしこい使い方）

(3) 生活に役立つ物の製作について、次の事項を指導する。

ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。

- 生活を楽しくする作品づくりの構想・計画・手順など

イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。

- 生活を楽しくする作品づくり——マイバッグ、ナップザック、エプロン、カフェエプロンなどのつくり方

ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

- 製作に必要な用具 ○針やはさみ、アイロン、ミシンなどの使い方と安全な取扱い

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)	備 考 (内容の取扱いなど)
C 衣生活・住生活と自立 (1) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。 ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。 イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。 (2) 住居の機能と住まい方について、次の事項を指導する。 ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。 イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫について、次の事項を指導する。 ア 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。 イ 衣服又は住まいに関心を持ち、課題をもって衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できること。	注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。 ㊦ (1) ア・イ C (2)・(3) の項目と相互に関連を図ることが考えられる。 アでは、C (2) イの事項と関連をはかり、季節の変化や住まい方に合わせてすずしい着方やあたたかい着方を考えるなど、衣服のはたらきについて日常生活と関連させて学習することも考えられる。 イの洗たくでは、D (1) と関連付けて、既製服の表示調べをしたあと洗たくの学習を行い、さらに洗たく水や洗ざいと関連づけて (2) の環境学習に発展させることも考えられる。 なお、洗ざいのはたらきは中学校で学習するので、小学校では身近な環境への影響を考えた洗ざい量などを中心に扱う。 ㊦ (2) ア D (2) の環境内容との関連を図って取り扱う。 ㊦ (2) イ 前は課題選択であったが、今回は「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」のいずれもすべての児童に学習させることとなった。 D (2) の環境内容と関連を図って省エネルギーにつなげるなどの展開も考えられる。 ㊦ (3) 製作題材は指定していないので、2学年間を見通して、平易なものから段階的に題材を発展させながら、基礎的・基本的な技能の定着を図るようにする。 ㊦ (1)～(3) これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「C 快適な衣服と住まい」の内容 (1)・(2)・(3) に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。 ㊦ 注記 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す (3学年間で1または2事項を選択する)。

D 身近な消費生活と環境

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること。

- 自分の持ち物の分類・活用 ○物やお金の使い方を見直し

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

- じょうずな買い物のしかた ○マークや品質表示
○いろいろな買い方や支払い方

(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

- 不用品の活用、リデュース・リユース・リサイクル
○ガス・水の節約、ごみの減量や分別、布地の有効な使い方、不用品の活用、かしこい買い物、節電など

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

- 食品の表示と選び方 ○食品の保存
○布地の表示・取り扱い絵表示

(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

- 不用品の活用、リデュース・リユース・リサイクル、油よごれのしまつ、洗たく用洗剤の使用量など
○環境を考えた生活の工夫 ○地域のルールやマナー

内容の取扱い等

内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 「B 日常の食事と調理の基礎」については、次のとおり取り扱うこと。

ア (2) のア及びイについては、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。

イ (3) のエについては、米飯やみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることにも触れること。

ウ 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。

(2) 「C 快適な衣服と住まい」の (2) のイについては、主として暑さ・寒さ、通風・換気及び採光を取り上げること。

(3) 「D 身近な消費生活と環境」については、次のとおり取り扱うこと。

ア (1) のイについては、「A 家庭生活と家族」の (3)、「B 日常の食事と調理の基礎」の (3) 並びに「C 快適な衣服と住まい」の (2) 及び (3) で扱う用具や実習材料など身近な物を取り上げること。

イ (2) については、「B 日常の食事と調理の基礎」又は「C 快適な衣服と住まい」との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。

実習の指導については、次の事項に配慮するものとする。

(1) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。

(2) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。

(3) 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。

家庭との連携

家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮するものとする。

言語活動の充実と家庭科

各内容の指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)	備 考 (内容の取扱いなど)
D 身近な消費生活と環境 (1) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。 ア 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。 イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。 (2) 家庭生活と環境について、次の事項を指導する。 ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。	注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。 ㊦ (1) イ 買い物の学習では、A(3)の団らんのための買い物や、B(3)の調理の材料の選択・購入、C(2)の持ち物の見直し学習、C(3)の材料・用具の選択・購入などと関連させて展開させることが考えられる。 ㊦ (2) ア B(3)の学習との関連を図って調理実習の材料などを無駄なく使うことを考えさせたり、C(2)のごみの分別や減量のしかたを工夫させたり、C(3)の布の扱い方と関連させたりして効果的に学習を展開することが考えられる。 ㊦ (1)・(2) 小学校で学習したD(1)・(2)の内容を基盤にし、中学校A・B・Cの学習と関連を図り総合的に展開できるように配慮する。
内容の取扱い (1) 内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」については、次のとおり取り扱うものとする。 ア(1)、(2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。 イ(2)のAについては、高齢者などの地域の人々とのかかわりについても触れるよう留意すること。 ウ(3)のAについては、幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性についても扱うこと。 (3)のウについては、幼稚園や保育所等の幼児との触れ合いができるよう留意すること。 (2) 内容の「B 食生活と自立」については、次のとおり取り扱うものとする。 ア(1)のイについては、水の働きや食物繊維についても触れること。 イ(2)のウについては、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の良否や表示を扱うこと。 ウ(3)のAについては、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。 (3)のイについては、調理実習を中心とし、主として地域又は季節の食材を利用することの意義について扱うこと。 また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。 エ 食に関する指導については、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。 (3) 内容の「C 衣生活・住生活と自立」については、次のとおり取り扱うものとする。 ア(1)のAについては、和服の基本的な着装を扱うこともできること。(1)のイについては、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと。(1)のウについては、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱うこと。 イ(2)のAについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。 ウ(3)のAについては、(1)のウとの関連を図り、主として補修の技術を生かしてできる製作品を扱うこと。 (4) 内容の「D 身近な消費生活と環境」については、次のとおり取り扱うものとする。 ア 内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」、「B 食生活と自立」又は「C 衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。 イ(1)については、中学生の身近な消費行動と関連させて扱うこと。	

■小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の「調理実習」例

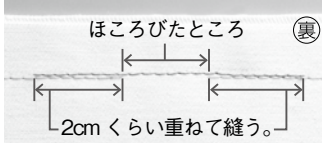
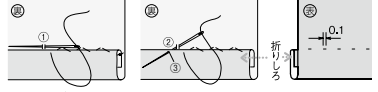
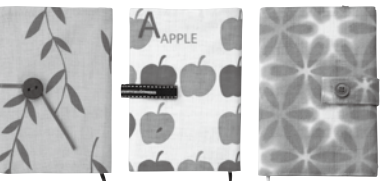
小学校家庭	テーマ 題材	第5学年標準 「生活を見つめ、できることを増やしていこう」				
		はじめての調理（ゆでる調理／5年生のスタート）			ご飯とみそしる	
	実習例	ゆで卵	ゆで青菜	ゆで野菜サラダ	ご飯	みそしる
						
中学校技術・家庭 家庭分野	題材 テーマ	肉の調理			魚の調理	
		しょうが焼き	さばのみそ煮	ムニエル	野菜の調理	
実習例とおもなポイント						
		煮込みハンバーグ(またはハンバーグステーキ)	焼き魚	つみれ汁		
						
				魚の調理の手法例 ★うま味をとりだして煮る ★小麦粉をつけて焼く ★焼き網で香ばしく焼く ★だんごにする ★たれをつけて焼く		
				さばのみそ煮との組み合わせ例 ●とうふとみづばのすまし汁 ●きゅうりとわかめの酢のもの		

【注記】 開隆堂の教科書で取り上げた例。小学校の＊印のフライパンを使った調理、＊印のじゃがいも調理は、それぞれの中から一つを実習。中学校は肉・魚・野菜を中心に日常よく用いられる卵やいも類などを取り上げた調理実習を扱い、「日常食の献立と食品の選び方」の学習との関連を図る。

第6学年標準 「くふうして、生活に生かそう」				
朝食のおかず＊（いためる調理）		いろいろなおかず・おいしい食事＊＊（6年生のまとめ）		
スクランブルエッグ	三色野菜の油いため	粉ふきいも	ジャーマンポテト	その他の調理例
				ツナポテトサラダ 
★油よごれの用具・食器のあとしまつ ★生ごみのあとしまつ		★じゃがいもの皮むき ★大きさをそろえてじゃがいもを切る ★味つけをする ★生ごみのあとしまつ		発展 目玉焼き 
★卵をとき、味をつける ★弱火、短時間で混ぜながらいためる	★材料をよく洗う ★材料のいろいろな切り方 ★野菜をいためる順序 ★強火、短時間でいためる ★彩りよくもりつける	★やわらかめにゆでる ★火加減に注意して粉をふかせる	★固めにゆでる ★材料をいためる順序 ★油よごれの用具・食器のあとしまつ	
あと1品		発展：弁当	発展：お菓子	地域の食材と郷土料理
じゃがいものサラダ	かきたま汁	さばの塩焼き弁当	チョコチップクッキー	手打ちうどん
				
		野菜の肉巻き弁当	いももち	ちらしずし
				
ツナのオープンサンド	大豆とひじきの煮もの	サンドイッチ弁当	牛乳かん	生活の課題と実践 加工食品と手づくり食品（炒飯の例）  （加工食品・冷凍）（手づくり） 1食分の調理（オリジナルハンバーグ） 
		おにぎり弁当	カップケーキ	
				
青菜のビビンバ風	かぼちゃの煮もの		グミキャンデー	
				
せん切り野菜のスープ（またはわかめスープ）	電子レンジでつくる野菜グラタン	弁当のおかずの例	エコクッキング	エコクッキング（ラタトゥイユ）
		●切り干しだいこんの煮もの ●野菜の肉巻き ●りんごとさつまいもの重ね煮 ●いそべロール卵焼き など	●にんじんとだいこんの皮のきんぴら ●ふろふきだいこん ●骨せんべい ●船場汁 ●ブロッコリーの茎とベーコンいため など	お節  （お節は上から、田づくり、たたきごぼう、なますの例）

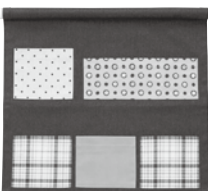
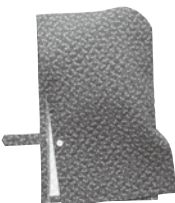
■小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の「布を使った物の製作」

小学校家庭	テーマ 題材	第5学年標準 「できることを増やしていこう」				
		針と糸にチャレンジ(5年生のスタート)			ミシン縫いにチャレンジ*	
	製作例	ネームプレート	①カード入れ	②ティッシュペーパー入れ	ランチョンマット	クッション
習得する技能		①と②はどちらでもよい。				
						
習得する技能		★針に糸を通す ★玉結び・玉どめ ★ぬい取り ★ボタンつけ ★なみ縫い ★本返し縫い ★半返し縫い ★かがり縫い ★針やはさみの安全な使用	★玉結び・玉どめ ★ボタンつけ ★なみ縫い ★本返し縫い ★半返し縫い ★かがり縫い ★針やはさみの安全な使用	★玉結び・玉どめ ★まち針のとめ方 ★しるしつけ ★なみ縫い ★本返し縫い ★半返し縫い ★かがり縫い ★針やはさみの安全な使用	★ミシン縫いのしかた ★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★しつけのしかた ★ミシンの直線縫い ★角の縫い方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用	★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★ミシンの直線縫い ★角の縫い方 ★返し口の縫い方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用 ★綿の入れ方

中学校技術・家庭「家庭分野」	テーマ	衣服の補修	身近にある布を生かした小物	外出するときに使うもの
	製作例とおもなポイント	ほころび直し	ペットボトルホルダー	ショルダーバッグ
		 ほころびたところ (裏) 2cm くらい重ねて縫う。 ミシンや手縫いで、ほかのところと同じくらいの針目でぬう。	 ★使わないでしまったままになっているハンドタオルや手ぬぐい、小ぶろしき、ひもなどの活用。 ★布はしるしまつをはぶくことができる。 ★ミシン縫い、かがり縫い、半返し縫い、本返し縫いなど。 ★保冷剤用ポケットなどの工夫。	
製作例とおもなポイント		すそ上げ(まつり縫い)	ファイルカバー	
		 針目間隔の$\frac{1}{2}$～$\frac{1}{3}$くらいのところで表の針目が目立たないように水平に表布をすくい、折りしろの裏を通して③に出る。(単位 cm) ※厚地の場合は、千鳥掛け(⇒193 ページ)にするとよい。	 ★手ぬぐいを利用。 ★とめ具をスナップやボタンなどで工夫。 ★柄の使い方や、2枚の手ぬぐいを組み合わせるなどの工夫。 ★ミシン縫い、まつり縫い、スナップつけ、ボタンつけなど。	★じょうぶで伸びにくい厚手の綿などを活用。 ★着なくなったズボンやスカートの利用。 ★平ひもを利用。 ★ふた部分と本体を別の布を用いて2色使いにすることも可能。 ★ロックミシン、ミシン縫い、スナップつけ、ボタンつけなど。
		スナップ・かぎホックつけ	[応用] ブックカバー	
製作例とおもなポイント		●スナップ ●かぎホック 凸型(上側) 凹型(下側) 上側 下側	 ★ファイルカバーのふたの部分の省いて本のサイズに合わせてつくるができる。	
製作例とおもなポイント		基礎縫いの練習でつくるマスク		
			★ボタンやテープを利用してとめる。 ★ミシン縫い、まつり縫い、スナップつけ、ボタンつけなど。	

作品例

【注記】 開隆堂の教科書で取り上げた例。小学校の*印および**印の作品は、それぞれの中から一つを製作。

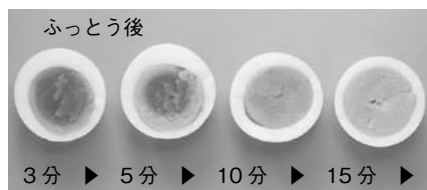
第6学年標準 「くふうして、生活に生かそう」							
生活を楽しむものを作ろう＊＊							
マルチカバー	まくらカバー	マイバッグ	ナップザック	エプロン	カフェエプロン		
							
★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★三つ折り縫い ★ミシンの直線縫い ★角の縫い方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用	★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★三つ折り縫い ★ミシンの直線縫い ★重なり部分の縫い方 ★出し入れ口の縫い方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用	★型紙づくり ★型紙と布の合わせ方 ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★三つ折り縫い ★出し入れ口の縫い方 ★ミシンの直線縫い ★ひものぬいつけ方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用	★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★しつけのしかた ★三つ折り縫い ★出し入れ口の縫い方 ★ミシンの直線縫い ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用 ★ひもの通し方	★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★しつけのしかた ★三つ折り縫い ★ミシンの直線縫い ★ポケットのつけ方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用 ★ひもの通し方、つけ方	★型紙づくり ★布の裁ち方 ★しるしつけ ★まち針のとめ方 ★三つ折り縫い ★ミシンの直線縫い ★ひもの縫いつけ方 ★ミシンの安全な使用 ★アイロンの安全な使用		
住まいの空間を美しくするもの		体をおおう物		生活の課題と実践例			
ウォールポケット	ハーフパンツ	幼児の生活に役立つもの		ちゃんちゃんこ			
 参考：仕上がり寸法 50cm × 48cm ★デニムなどの厚手の綿など。 ★ポケットの大きさや数、配色の工夫。 ★ミシン縫い	 ★綿の 布、 ゴムテ ープ。 ★上衣との 組み合 わせ（着 装）の 工夫。 ★ロックミシン、ミシン縫い。 ★すその縫いしろの裁断に気ををつ ける。 ★また上の縫い方、前後また下の まち針のとめ方。	 ●タオルでつくったじんべい ●リュックサック					
パッチワークタペストリー		ベスト		ふろしきや残り布でリフォーム			
 参考：1 ブロックの寸法 10cm × 10cm ★ピース用の布は材質・厚さを統一 して、色・柄のちがうものを用意。 ★ブロックの台布は色無地が適す る。 ★ピースごとに柄などを工夫。 ★ミシン縫いなど。	 ★やや厚手のソフトデニム、綿ブ ロードなど。 ★バイアステープやオープンファ スナー、ボタンなどの利用。 ★上衣や下衣との組み合わせ（着 装）の工夫。 ★ロックミシン、ミシン縫いなど。	 ●エコバッグ ●手ぬぐいを使って あすま袋 ●ハンカチを使って はし入れ袋		リフォームで防災グッズ			
		 ●防災頭巾		 ●断熱素材入りファス ナーつき防災頭巾 （写真は、二つ折り にして座ぶとんにし た場合）		 ●ナップザック	 ●なべつかみ ●簡易スリッパ

■小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の「実験・観察」例

小学校家庭

卵のゆで時間と固まり具合

(P.12)



たく前の米と、たいたあとの 米の体積の比かく

(P.46)



たく前(米)

たいた後(ご飯)

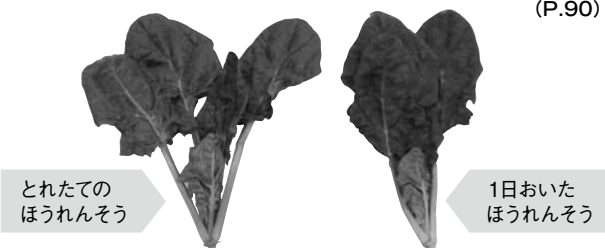
生の野菜とゆでたときのちがい(かさの変化)

(P.13)



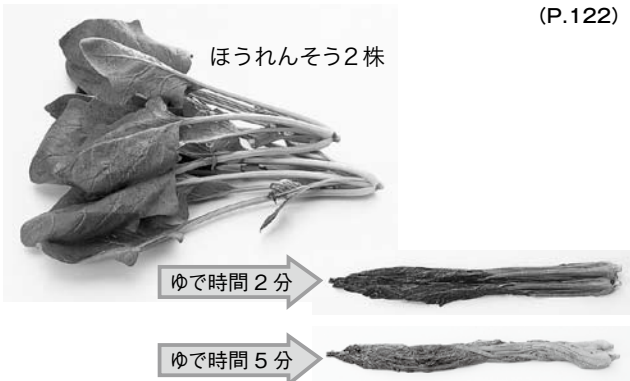
野菜の鮮度比較(経時変化による)

(P.90)



加熱による青菜の量と色の变化

(P.122)



ごぼうの色の变化

(P.122)

さがきににしたごぼう



水につけたもの

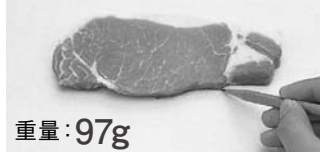


水につけないもの

加熱による肉の変化

(P.110)

●加熱する前



重量: 97g

●表と裏を3分ずつ焼いた後



重量: 79g

こね方によるひき肉の変化

(P.112)



こねた回数の多いハンバーグ



こねた回数の少ないハンバーグ

中学校技術・家庭「家庭分野」

① (食生活に関する学習)

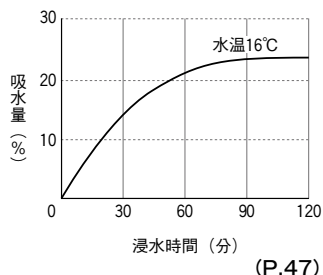
【注記】 開隆堂の教科書で取り上げた主な実験・観察例。

米がご飯になるまで

米に水と熱を加えると、ご飯になる。



浸水時間と米の吸収量

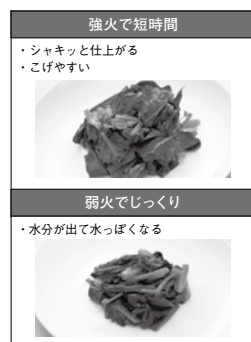


卵と野菜の加熱による変化



(P.71) (P.71)

いため方によるちがひ



発展

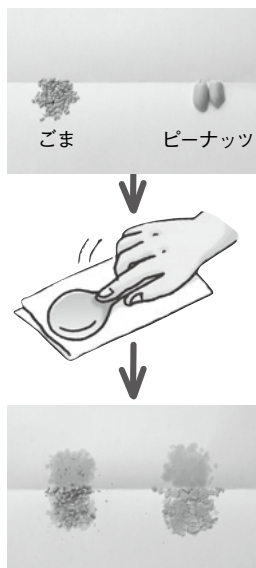
食品に含まれる成分を、
目で見て確かめよう！
(P.76・77)



脂質

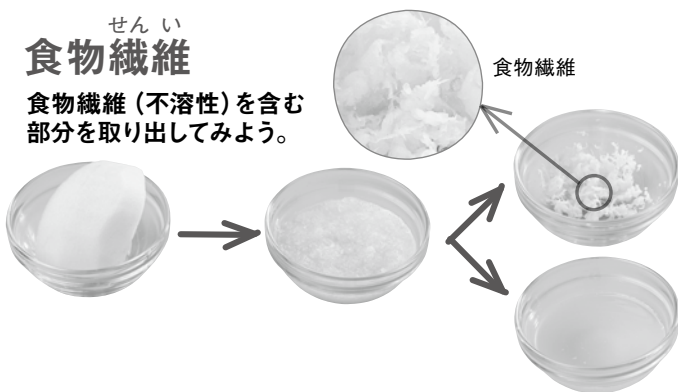
種実をつぶして脂質を
見てみよう。

▶種や実をつぶすと中の
脂質が出て、紙ににじみ、
油のしみができる。



食物繊維

食物繊維 (不溶性) を含む
部分を取り出してみよう。

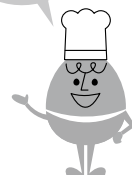


「おいしさ」とは

(P.108)

「風味」を確かめてみる

おいしさを
五感で
感じよう。



実験

香りと味は関係している

鼻をつまんで味わおう

- ① キャンディー*を用意して、鼻をつまんで口に入れ、味わってみよう。
- ② 鼻をつまんだ手をはなして、印象が変わるか感じてみよう。
*キャンディーの他にも、チーズ、きゅうり、りんご、かまぼこ、つけものなどでも試してみよう。

口と鼻はのどの奥でつながっています。鼻をつまむと口からの空気の流れが嗅覚を刺激しません。鼻をつまんで食べた感覚とつまんだ手をはなして味わう感覚がちがいます。舌と香りの両方で感じる味を「風味」といいます。

料理をおいしくする工夫～だし汁

実験

だし汁の味を比較してみよう。

- ① 煮干しのだし汁 (塩 0.8%を加える)
 - ② かつおぶしのだし汁 (塩 0.8%を加える)
 - ③ こんぶのだし汁 (塩 0.8%を加える)
- それぞれのだしの味を比較し、どんなちがひがあるか言葉に表してみよう。

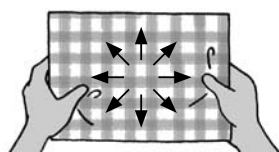
■小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の「実験・観察」例

小学校家庭

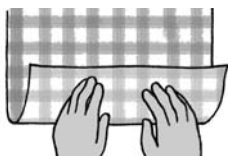
布の特徴を調べる (紙と比べてみる)

(P.38)

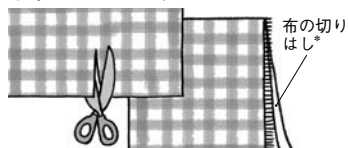
- いろいろな方向に引っ張ってみよう。



- 折り目をつけてみよう。



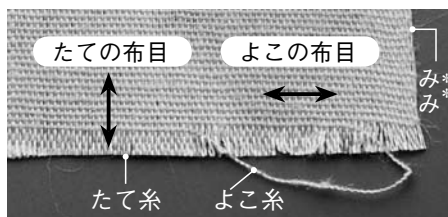
- 布を切ってみよう。



布を細かく観察する

(P.38)

織った布



たて糸と、よこ糸で織った布
(ハンカチや給食着など)

編んだ布



1本の糸で編んだ布
(体育着など)

フェルト

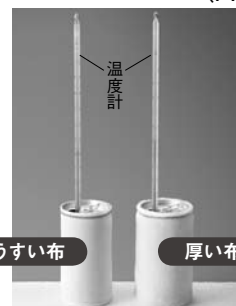


せんいをからませて固めた布

布の厚さによる あたたかさのちがい

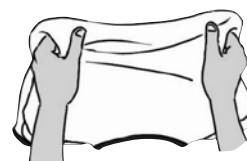
(P.58)

同じ大きさで厚さのちがう布を巻いた「かん」に湯を入れ、温度の下がり方を比べる。



布ののびやすさのちがい

(P.59)



体育着の布と給食着の布を引っ張って比べる。

中学校技術・家庭「家庭分野」

衣服についたよごれを見る

(P.158)



1日着用したシャツ全体に、ニンヒドリン(薬品)をかけた写真である。ニンヒドリンは、汗や皮脂汚れに含まれるたんぱく質に反応し、赤紫に発色する。赤紫の部分が、汚れが多くなっていることがわかる。

洗濯などの手入れで 失敗した例を観察する

(P.160)

- ① アイロンの熱で縮んだポリエステル製のズボン



- ② 日の光で退色した布



- ③ つり干しで型くずれしたセーター

黒い線が、干す前のセーターの形



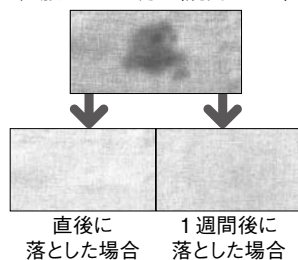
- ④ 洗濯で縮んだセーター



時間の経過と、よごれの 落ち方のちがい

(P.159)

衣服についた汚れ(焼肉のたれ)



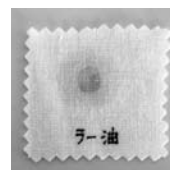
実験

(P.164)

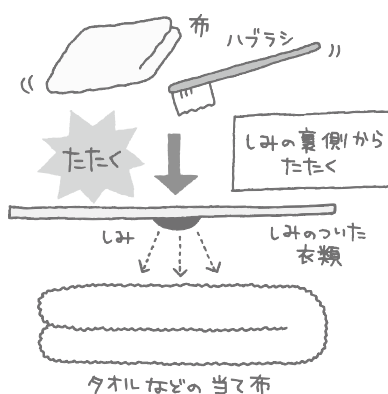
汚れ落ちに対する洗剤と 機械力の効果を調べる

材料と用具

- ☐ 綿の白布(5cm×5cm 程度) 2枚
- ☐ 水性和油性の汚れ(しょうゆ、ラー油)
- ☐ 液体洗剤
- ☐ ふたつきびん2個
- ☐ 割りばし
- ☐ 油性ペン



実習例



② (衣生活に関する学習)

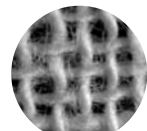
【注記】 開隆堂の教科書で取り上げた主な実験・観察例。

布による空気を通しやすさのちがい

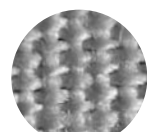
(P.82)



つつなどの先に布をかぶせて、息をふきかける。



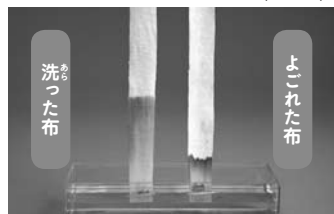
目があらい布



目が細かい布

よごれによる水のしみこみやすさのちがい

(P.83)



水だけでどのくらい落ちるか調べる

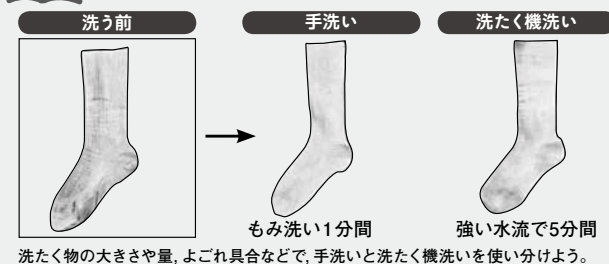
(P.84)



どろよごれ

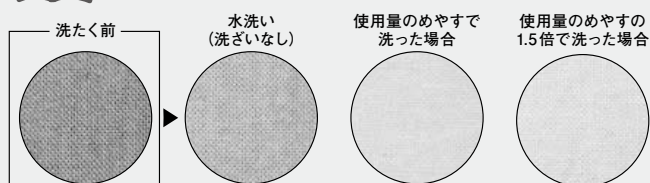
参考 手洗いと洗たく機洗い

(P.84)



参考 洗ざいの量とよごれの落ち具合

(P.85)



(写真は、よごれた布を用いて洗たくしたときの、よごれの落ち具合を示したものの。洗ざいの量を増やしてもよごれの落ち方はほとんど変わらない。)

(P.159)

汚れの種類によって
落ち方がちがうね。
綿ではなくポリエステル
だったら、汚れ落ちは
ちがうかな。

実験の手順

- ① 布に汚れの種類を記入する。
- ② 汚れ(しょうゆとラー油)を割りばしで布につけ、かわかす。
- ③ 水を入れたびんに、汚れのついた布をしずめてしばらくおき、汚れ落ちのようすを比較する。
- ④ ③に洗剤を2〜3滴加え、汚れ落ちのようすを比較する。
- ⑤ ④のびんをよくふり、汚れ落ちのようすを比較する。

実験の結果

条 件	しょうゆ	ラー油
汚れた布をしずめると(③)		
洗剤を水に加えると(④)		
洗剤を加えてびんをふると(⑤)		

しみぬき

汚れは時間がたつと、その成分が変質したり、繊維にしみ込んだりして、落ちにくくなります。また、しみぬきの方法を間違えると、布地が毛羽立ったり、変色したりします。衣服の素材と汚れの性質に合わせて方法を選びます。

しみぬきのポイント

- ① なるべく早く処置する。
- ② しみは、こすらず、たたいて当て布に移し取る。
- ③ 熱を加えない。
- ④ 洗剤などが残らないように、水を加えてたたき出す。

発展

洗濯排水の 汚れぐあいを 調べてみよう (P.170)

COD パックテストによる汚れ検査

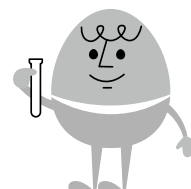
水の汚れぐあいは、水中に含まれる有機物の量に比例します。市販の「COD (化学的酸素要求量) パックテスト」を用いて、水中の有機物の量を調べます。

- ① パックテストのチューブには、酸化力の強い試薬が入っています。汚水にこの試薬を吸い込ませて発色した色で、汚れの程度を見ることができます。
- ② パックテストのやり方の注意を見て、実験しましょう。



黄や緑は汚
れが多く、赤
は汚れが少な
いことを示す。

洗剤量	水の汚れぐあい
指定量を使用	
指定量の2倍を使用	
すすぎ	1回 2回 3回 4回



■小学校「家庭」と中学校「技術・家庭 家庭分野」の「実験・観察」例

小学校家庭

(P.60)

調べよう

家や学校内のいろいろな場所の明るさやあたたかさを調べてみよう。



日当たりがよい
ところ（南側）
とわるいところ
（北側）



部屋全体と
自分の机の上

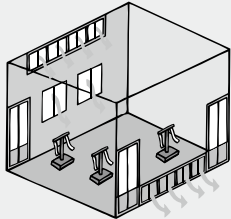
場所	温度	湿度	明るさ(ルクス*)	気がついたこと
ろう下				
教室				

(*明るさの度合を表す単位)



教室の風の
流れを見てみよう

(P.60)



紙テープなどを使って、窓をすべて開けて風通しを調べる。

調べてわかったこと

窓の開け方	温度	湿度
窓や戸をすべて 閉めた場合		
窓や戸を片側 だけ開けた場合		
窓や戸をすべて 開けた場合		

(P.181)

実習例

高齢者や幼児を学校に迎えるための安全点検

中学校は、中学生が安全に使うことを考えて設計されています。中学校に、ゲストとして幼児や地域の高齢者を迎えることを想定して、安全対策のための点検をしてみよう。

- 黄色いメガネをつくって、白内障の高齢者の見え方を確かめてみよう。



黄色いメガネは、厚紙でつくったメガネのフレームに、黄色のセロファンを二重にはってつくります。

- 幼児の視線の高さでどのように見えるか確認してみよう。

- ☐ ドアの取っ手の位置
- ☐ いすの高さ
- ☐ 洗面台の高さ
- ☐ トイレ
- ☐ 階段

安全かな？



中学校技術・家庭「家庭分野」

③ (住生活や環境に関する学習)

【注記】 開隆堂の教科書で取り上げた主な実験・観察例。

(P.80)

調べよう

部屋の中ですずしく過ごすために、風の通り道をつくるくふうをしよう。
部屋の窓の開け方を変え、温度や湿度を実際に測って、感じ方を比べよう。調べるときの外の風の向きや強さも知っておこう。



窓や戸をすべて
閉めた場合

窓や戸を片側だけ
開けた場合

窓や戸をすべて
開けた場合

気づいたこと

(例) むし暑い

(P.81)

植物を利用して熱をさえぎる



緑のカーテン*

植物の葉は日光をさえぎり、葉から出る水分のはたらきにより、周囲の温度を下げる。
熱の分布を調べる実験では、表面温度を測っている。赤いところは温度が高く、青いところは低いことを示している。

【関連】 理科6年:葉の蒸散作用

●窓の外に植物を植えていない。(色で見た温度)



●窓の外に植物を植えている。(色で見た温度)



(東京都板橋区の小学校)

やってみよう

トライ! 夏のエコ生活



- 冷房器具は必要なときだけつける。
- 冷房器具は28度に設定する。
- すずしさを感じにくいときは冷房器具とせん風機をいっしょに使う。
- 冷房器具のフィルターを月に1回そうじする。
- 省エネルギー家電を活用する。
- 打ち水をする。
- ふろの残り湯を、洗たくや打ち水に再利用する。
- 衣服で暑さを調節する。
- 自分用のうちわを持つ。

話し合おう

すずしく過ごすためにできることを話し合い、家でもやってみよう。



やってみたこと	感じたこと

(P.187)

実験

日常生活の音を測ってみよう

騒音計を使って、次の場所の音を測ってみよう。

① 授業中の教室の中 (だれか一人が話している場合)

デシベル*

② 休み時間の教室の中

デシベル

③ クラブ活動が行われているときの体育館の中

デシベル

*デシベル (dB) = 音の大きさの測定単位。
人間の聴覚に近い A 特性で測定する。



12 図 ▶ 騒音計

(P.229)

実験

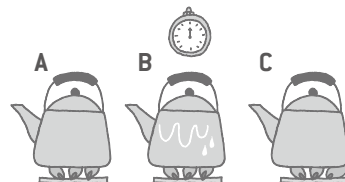
エネルギーを実際にはかってみよう

① 火加減を同じにしてやかんで水を沸かす時間をはかる (ガスの使用量を比べる)

A 乾いた底で火がはみ出さないように火加減を調節する。

B 同じやかんで底をぬらし、火加減を A と同じにする。

C 乾いた底の同じやかんでずらして火加減を同じにし、火をはみ出させる。



② ワットメーター (電力計) で消費電力を測定する

コンセントに取りつけてプラグをさすと消費電力が表示される。
テレビや照明など、いろいろな家電を調べてみよう。

冷蔵庫 100Wh テレビ 50Wh パソコン 30Wh



11 図 ▶ ワットメーター

③ あなたの家の 1 か月の電気使用量を調べてみよう

小学校「家庭」にかかわる他教科の学習内容

教科	学年	項目	内 容
算 数	2	量と測定	○長さの単位 (mm, cm, m)・体積の単位 (mL, dL, L)
	3	量と測定	○重さについて単位と測定の意味を理解し、重さの測定ができるようにする。重さの単位 (g, kg) ○長さや重さについておよその見当を付けたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。
		算数的活動	○小数や分数を具体物、図、数直線を用いて表し、大きさを比べる活動 ○長さ、体積、重さのそれぞれについて単位の関係を調べる活動 ○日時や場所などの観点から資料を分類整理し、表を用いて表す活動
	4	数と計算	○小数と分数について加法・減法 ○概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
社 会	3・4	内容	○飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。 ○地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを見学したり、調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。 ○地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 ア. 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子
			○様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。 ○食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き
理 科	5	わが国の農業や水産業	○様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。 ○食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き
	3	太陽と地面の様子	○日陰の位置の変化や、ひなたと日陰の地面の様子を調べ、太陽と地面の様子との関係についての考えをもつことができるようにする。
	4	金属、水、空気と温度	○金属、水、空気を温めたり冷やしたりして、それらの変化の様子を調べ、金属、水、空気の性質についての考えをもつことができるようにする。
	5	植物の発芽、成長、結実	○植物を育て、植物の発芽、成長及び、結実の様子を調べ、植物の発芽、成長及び、結実とその条件についての考えをもつことができるようにする。
	6	燃焼のしくみ	○物を燃やし、物や空気の変化を調べ、燃焼の仕組みについての考えをもつことができるようにする。 ア. 植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができること。
		水溶液の性質	○いろいろな水溶液を使い、その性質や金属を変化させる様子などを調べ、水溶液の性質や働きについての考えをもつことができるようにする。
生 活 科	1・2	内容	○イ. 食べ物、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。
			○イ. 食べ物、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。
			○イ. 食べ物、口、胃、腸などを通る間に消化、吸収され、吸収されなかった物は排出されること。
	3・4	健康の大切さ	(1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。 (2) 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。 (8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさがわかり、進んで交流することができる。 (9) 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。
			(3) 具体的な活動や体験を行うにあたっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。
			(3) 具体的な活動や体験を行うにあたっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。
体 育	3・4	健康の大切さ	(1) 健康の大切さを認識するとともに、健康によい生活について理解できるようにする。 イ. 毎日を健康に過ごすには、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けること、また、体の清潔を保つことなどが必要であること。 ウ. 毎日を健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整えることなどが必要であること。
			(2) 体の発育・発達について理解できるようにする。 ウ. 体をよりよく発育・発達させるには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であること。
	5・6	病気の予防	(3) 病気の予防について理解できるようにする。 ウ. 生活習慣病などの生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、栄養の偏りのない食事とること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。
			(5) 保健の内容のうち食事、運動、休養及び睡眠については、保健を除く第3学年以上の各領域及び給食に関する指導においても関連した指導を行うよう配慮すること。
道 徳	1・2	主として自分自身に関すること	○健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
		主として他の人とのかかわり	○幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○日ごろ世話になっている人々に感謝する。
		主として集団や社会とのかかわり	○父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。
	3・4	主として集団や社会とのかかわり	○父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力しあって楽しい家庭をつくる。
		主として自分自身に関すること	○生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
	5・6	主として集団や社会とのかかわり	○父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをする。

平成 27 年度用 開隆堂小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科 5・6」の内容と他教科との関連

	5 年想定	関連する他教科の内容	6 年想定	関連する他教科の内容
A (家庭生活と家族)	家庭科の学習－2年間を見通して	生活 1・2 年：自分の成長	1 わたしの生活時間	
	1 わたしと家族の生活	生活 1・2 年：家庭と生活 道徳 1・2 年：生活を支えている人々に感謝の気持ちをもって接する	①生活時間を調べよう ②生活時間をくふうしよう	体育 3・4 年：毎日の生活と健康 生活 2・3 年：家庭と生活
	5 やってみよう家庭の仕事 ①できることを増やそう ②家族に協力して仕事をしよう	生活 1・2 年：家庭と生活 道徳 1・2 年：進んで家の手伝いなどをして家族の役に立つ 道徳 1・2 年：働くことのよさを感じてみんなのために働く	7 共に生きる生活 ①わたしたちの生活と地域 ②わたしの気持ちを伝えよう ③考えようこれからの生活	社会 3・4 年：人々の仕事とわたしたちの暮らし 道徳 5・6 年：働くことの意義を理解し、公共のために役立つことをする 道徳 5・6 年：日々の生活が人々の支えや助け合いで成り立っていることに感謝しそれにこたえる
	10 家族とほっとタイム ①楽しく団らん ②つながりを深めよう	道徳 3・4 年：家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる		
	5 年生の学習をふり振り返り、6 年生の学習へ		成長したわたしたち	
B (日常の食事と調理の基礎)	2 はじめてみようクッキング ①クッキングはじめの一步 ②ゆでてみよう ③野菜をゆでておいしく食べよう	理科 4 年：温度による水の変化 理科 6 年：燃焼のしくみ 算数 2・3 年：量と測定 社会 3・4 年：ごみの処理 理科 3 年：植物の育ち方	2 いためてつくろう朝食のおかず ①朝食を考えよう ②いためてみよう	体育 3・4 年：毎日の生活と健康 算数 2・3 年：量と測定 社会 3・4 年：健康な生活と水
	7 食べて元気に ①なぜ食べるのか考えよう ②五大栄養素のはたらき ③3つの食品のグループとそのはたらき ④ご飯とみそしるをつくろう	体育・3・4 年：健康の大切さ 理科 6 年：食べ物の消化・吸収・排出 体育 6 年：体の発育・発達 体育 5・6 年：病気の予防 理科 5 年：植物の発芽、成長、結実 社会 3・4 年：昔の暮らし 算数 5 年：円グラフ 算数 2 年：体積のはかり方 算数 4 年：折れ線グラフ 理科 6 年：水溶液の性質 社会 3 年：地域の産業	6 くふうしようおいしい食事 ①バランスのよいこんだてを考えよう ②身近な食品でおかずをつくろう ③楽しく、おいしい食事をくふうしよう	体育 6 年：体の発育・発達 体育 5・6 年：病気の予防 算数 2・3 年：量と測定 道徳 3・4 年：家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる
C (快適な衣服と住まい)	3 はじめてみようソーイング ①糸と針にチャレンジ ②楽しい小物づくり	算数 2 年：長さの単位	5 楽しくソーイング ①つくりたい物を考えよう ②計画を立ててつくろう ③楽しく使おう	算数 2 年：長さの単位
	6 わくわくミシン ①ミシンぬいにチャレンジ ②計画を立てて、つくってみよう	理科 6 年：電気の利用 算数 2 年：長さの単位		
	4 かたづけよう身の回りの物 ①身の回りに目を向けよう ②整理・整とんをしよう		3 クリーン大作戦 ①そうじのしかたを見直そう ②そうじのしかたをくふうしよう	体育 3・4 年：毎日の生活と健康 理科 6 年：水溶液の性質 社会 3・4 年：ごみの処理
	9 寒い季節を快適に ①あたたかい着方をくふうしよう ②明るく、あたたかく住まうくふう	理科 4 年：空気と温度 理科 3 年：光の性質 理科 4 年：空気のあたたまり方 理科 6 年：電気の利用 体育 3・4 年：毎日の生活と健康	4 暑い季節を快適に ①すずしい住まい方をくふうしよう ②すずしい着方をくふうしよう ③洗たくをしてみよう	理科 3 年：太陽と地面のようす 体育 3・4 年：毎日の生活と健康 体育 3・4 年：毎日の生活と健康 理科 4 年：空気や水の性質 体育 3・4 年：毎日の生活と健康 理科 6 年：水溶液の性質 社会 3・4 年：健康な生活と水
D (身近な消費生活と環境)	4 かたづけよう身の回りの物 ③物を生かすくふうをしよう	社会 3・4 年：ごみの処理 道徳 1・2 年：物を大切にする		
	8 じょうずに使おうお金と物 ①わたしたちの生活とお金 ②お金や物の使い方を考えよう ③買い物のしかたを考えよう	道徳 1・2 年：物や金銭を大切にする 社会 3・4 年：地域の生産や販売		



開隆堂出版株式会社 <http://www.kairyudo.co.jp>

本社	〒113-8608	東京都文京区向丘 1 丁目 13 番 1 号	TEL.03-5684-6111 [代表] / 03-5684-6116 [編集]
北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西 6-11	札幌北辰ビル 8 階 TEL.011-231-0403
東北支社	〒983-0043	仙台市宮城野区萩野町 1-11-1	萩野町 M ビル 2 階 TEL.022-782-8511
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市千種区星が丘元町 14-4	星ヶ丘プラザビル 6 階 TEL.052-789-1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町 2-10-16	TEL.06-6531-5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港 2-1-5	FYC ビル 3 階 TEL.092-733-0174